



オーストリア

Lebens- gefühl

[レーベンスゲフェール]

オーストリア流
人生の楽しみ方



austria.info

オーストリア
ポケットガイド

オーストリアは、3,000m級のアルプスからドナウ川、さらには東のパンノニア平原に至るまで、すばらしい自然景観に溢れています。これら絶景の他にも、この国の特徴の源となつて見どころや歴史、興味深い物語、美食は枚挙にいとまがありません。しかしながら、いかにアルプスが感動的でも、いかに湖水が透明でも、いかに町が美しくても、結局のところ、オーストリアを特別で素晴らしい国にしているのは、そこ

に住む人々であるというのは間違いありません。オーストリア人がユニークで、居心地の良い生活を送っていることや、個性的で独特なユーモアを持っていることはよく知られています。皆様もこの国を訪れ、オーストリアならではの Lebensgefühl (オーストリア流人生の愉しみ方) にぜひ触れてみてください。

オーストリア大使館観光部



P. 3
オーストリアについて
オーストリアの食文化や芸術、自然、地理などを紹介



P. 28
ウィーンについて
ウィーンの見どころ
ウィーン市街地図
ウィーンの郊外へ



P. 35
ザルツブルクについて
ザルツブルクの見どころ
ザルツブルク市街地図
ザルツブルクの郊外へ



P. 40
グラーツについて
グラーツの見どころ
グラーツ市街地図
グラーツの郊外へ



P. 44
インスブルックについて
インスブルックの見どころ
インスブルック市街地図



P. 47
インフォメーション
旅に役立つ基本情報

発行：オーストリア大使館観光部 Austria Tourism
編集&デザイン：株式会社東美 発行日：2026年4月
記載内容は変更されることがあります。
施設のオープン状況、イベントの開催については各ウェブサイトでご確認ください。
この製品はFSC®認証材および管理原材料から作られています。



© C1 (from top to bottom: Österreich Werbung/ Stefan Strasser, Mihai Jurca, P2 (contents): See applicable pages.

© Österreich Werbung/ Linda Schaeffler



ザルツブルク州レオガングの
ホテル・クララーホーフ

オーストリアはオイシイ!

アルプスの牧畜文化とハブスブルク帝国の多民族文化。
その出会いが、オーストリア料理の豊かな個性を形づくりました。

オーストリアの食文化の歴史は、アルプスの山岳牧畜と帝国都市ウィーンを源流に、時代とともに多様に発展してきました。中世にはすでに、アルプスの山岳地帯で夏季に高地へ移動して乳製品をつくる移牧が行われ、燻製や塩漬けなどの保存技術が発展しました。塩とバターを練った発酵生地の揚げパン「キアヒル」は、こうした厳しい気候と狩猟・牧畜文化から生まれた、チロル地方に伝わる郷土料理です。

続くハブスブルク帝国時代は、多民族の食文化が融合した時代といえるでしょう。中央ヨーロッパ全域を統治した帝国では、ハンガリー、ボヘミア、イタリアなど各地の料理文化がウィーンに集まり、現在のオーストリア料理の基盤が築かれました。ハンガリー由来のピリ辛煮込み「グーラッシュ」は、肉と玉ねぎをたっぷり使い、パプリカで風味を付けたスープ/シチューで、帝国

の東部領域から伝わりました。特に肉とザウワークラウトを煮込む「セゲディナー・グーラッシュ」は、オーストリア流にアレンジされた代表例です。薄く焼いたクレープ生地にジャムやチョコレート、カスタードを包んだ「バラチンケン」もまた、帝国領内のチェコやハンガリー、南チロルなどの菓子文化と融合し、ウィーンを中心に広まりました。宮廷料理の代表格が「ターフェルシュピッツ」です。牛肉を根菜やハーブとともにじっくり煮込む料理で、マリア・テレジア時代から皇室で愛された「おもてなし料理」の定番。肉の旨味が溶け出したスープも一緒に提供されます。薄く伸ばした仔牛肉に小麦粉・卵・パン粉をつけて揚げたカツレツ料理「ウィーナー・シュニッツェル」は、イタリアのコットレッタをヒントに宮廷で洗練され、やがて庶民にも広まったと言われます。

オーストリア・ポケットガイド



ターフェルシュピッツ

さらに、薄く伸ばした生地でリングやレーズン、シナモンを包んで焼き上げる「アプフェルシュトゥルデル」も、オスマン帝国圏の菓子文化の影響を受けながらウィーンで発展した代表的な菓子です。

19～20世紀にかけて、ウィーンの宮廷料理と大衆料理の二極化が始まります。

首都ウィーンでは、最高の食材と腕を持つ料理人が作る宮廷料理が発達する一方、庶民の食卓にはシンプルな「ウィナー・キュッヒェ」が根付きました。ウィナー・キュッヒェは直訳すると「ウィーン料理(ウィーンの台所)」を意味しますが、伝統と革新を併せ持つ、ウィーンを象徴する食文化を表現する言葉です。

グーラッシュやターフェルシュピッツ、ウィナー・シュニッツェルなどは、この時代に大衆向けの料理として広く定着しました。また、ザッハートルテ、パラチンケン、アプ

フェルシュトゥルデルなどのスイーツはカフェ文化とも結びつき、「ウィーンの味」として世界に広まりました。

そして現代は、地域色と高級グルメが共存する時代です。

今日のオーストリア料理は、地域の生産者と密接に連携する「スローフード」や、地元食材を重視する質の高い美食が目立っています。同時に、伝統的なホイリゲや山小屋の郷土料理も観光資源として大切に受け継がれています。

こうしてオーストリアの食文化は、アルプスの素朴な保存食から多彩な帝国宮廷料理を経て、さらに現代の地域連携型ガストロノミーへと連綿と受け継がれ、現在も新たな発展を続けています。

ザルツブルク州フォルト・クニーバスのスローフードコミュニティ



オーストリアの カフェ文化

ウィーンのカフェは芸術家たちの居間。
コーヒーとケーキ以上のものを提供する
ユニークな文化を持つ空間です。



ウィーンのカフェ・シュペール

© Left (from top to bottom): Österreich Werbung/ Wolfgang Schardt, Salzburg Burger Schloßerer/ Kathrin Gollackner, Right: Österreich Werbung/ Harald Eisenberger

カフェは全国にあります。なかでもウィーンのカフェ文化はユネスコ無形文化遺産に登録されているほど有名です。その歴史は17世紀末、オスマン帝国軍による第二次ウィーン包囲の頃に遡ると言われています。伝統的なカフェの特徴は、大理石のテーブル、トーンネットの曲木椅子、ボックス席、木製の新聞ホルダー、そしてプロフェッショナルなスタッフ。数十種類にも及ぶコーヒーと四季折々のケーキはもちろん、食事も楽しめます。コーヒー杯で長い時間を過ごしてもよいのが、ウィーンのカフェの魅力です。

ジークムント・フロイト、アンディ・ウォーホル、グスタフ・クリムト、オスカー・ココシカなど多くの芸術家や知識人が、ウィーンのカフェで数え切れないほどの時間を過ごしました。人々はここで新聞を読み、チェスやカード、ビリヤードを楽しみながら、世界のニュースや自分たちの考えについて語り合いま

た。カフェはまさに「第二の居間」として利用されてきたのです。

ウィーンはカフェ文化の中心地ですが、オーストリア各地にも魅力的なカフェがあります。ザルツブルクのカフェ・トマセツリは、この国で最も古いカフェの一つで、1700年頃に始まったといわれます。地元出身のモーツァルトが通った店としても有名です。リンツ中心部のカフェ・トラクセルマイヤーは、オットー・ワーグナーの弟子が設計した優雅なカフェ。グラーツのムーア川沿いのカフェ・ヴァイツァー、インスブルクのカフェ・ツェントラルでも、それぞれ特色あるコーヒーが味わえます。

近年はモダンなカフェバーやサードウェーブ系の店も増え、オーストリアのカフェ文化は新しい魅力を加えながら発展を続けています。



オリジナル・ザッハートルテ

オーガニック先進国の ファーマーズ・マーケット

オーストリアのオーガニック食材は国際的にも高く評価され、各地のファーマーズ・マーケットでも気軽に手に入ります。



グラーツのファーマーズ・マーケット

甘い芸術ザッハートルテ

ウィーン生まれのチョコレートケーキ、ザッハートルテ。その誕生には宮廷の逸話と名店の物語があります。

帝国時代以来、オーストリアではデザートはメインディッシュと同じくらい重要な存在です。ウィナー・シュニッツェル、ターフェルシュピッツやケーゼシュベッツレと並び、食文化の大切な一部とされています。カイザーシュマレンやマリレンクネーデルのように、デザートがメイン料理として供されることもあります。そんな数多くの菓子の中でも、世界的に知られる代表格が「ザッハートルテ」です。

1832年のウィーン。宰相メッテルニヒの宮廷で料理長が急病に倒れ、晩餐のデザートが用意できなくなりました。そこで名乗り出たのが、見習い菓子職人フランツ・ザッハー。彼は小麦粉、バター、砂糖、卵、チョコレートを使って濃厚な生地を焼き上げ、中央にアプリコットジャムを挟み、表面を香高いチョコレートで覆ったケーキを完成させます。このシンプルながら贅沢なケーキは宮廷の客人を魅了し、やがて世界的な名声を得ることになりました。

1876年、フランツの次男エドゥアルト・ザッハーがホテル・ザッハーを開業すると、このケーキはホ

テルのカフェで提供されるようになります。このホテル・ザッハーは、ウィーン国立歌劇場の隣に建つ5つ星ホテルで、創業150周年にもなります。

現在、ザッハートルテにはホテル・ザッハーの「オリジナル・ザッハートルテ」と、老舗菓子店デメールの「ザッハートルテ」があります。宮廷御用達のデメールが販売権を得たことをきっかけに両者は長年争い、この「ザッハートルテ戦争」と呼ばれる裁判の末、ホテル・ザッハーのみが「オリジナル」を名乗ることになりました。スポンジの間にアプリコットジャムを挟むかどうかなど、レシピに違いはありますが、どちらも個性があり、ウィーンを代表する味として親しまれています。

ホテル・ザッハー・ウィーンの
サロン・ザッハー



© Left (from top to bottom): Österreich Werbung/ Christian Kremser, Hotel Sacher, Right (from top to bottom): Graz Tourismus Stadtmarketing GmbH/ Tom Lamm

国土の13%が耕地で、そのうち約10%の農家が有機農業に従事するオーストリアは、国際的に見てもオーガニックの先進国です。消費者はより健康的で美味しい食事を求め、生産者にとっても安定した経営と収入につながります。有機栽培由来の製品を示す「バイオ(BIO)」は、厳しい基準を満たした高品質の証。大手スーパーマーケットでもバイオ製品が豊富に並び、オーストリアはヨーロッパでもトップクラスのバイオ生産国として知られています。

例えば、オーバーエステライヒ州のシュリアパッハ女子修道院で作られるチーズは、オーガニック製品の代表格として知られています。また同州北部では、ライ麦と天然サワードウ(発酵生地)を使った大きな長丸パン「マウラッハ・シュトルツェン」が名物です。さらにオーストリアのワイン生産地では、化学肥料や農薬を使わないオーガニック栽培のブドウ農家も多く、ここで造られるワインの硫黄含有量は法定基準の三分の一

以下。安心して味わえるワインとして人気です。

オーストリアのファーマーズ・マーケット(地元直売市)は、すべてがバイオ製品というわけではありませんが、地元産の新鮮な果物や野菜、乳製品、手工芸品などを気軽に購入できる人気スポットです。ジャム作りやチーズテイastingなどのワークショップが行われることもあり、地元文化に触れながら食材選びができる貴重な場所。旅行の際にはぜひ立ち寄りみてください。

マーケットでぜひ手に入れたいオススメは、ミネラル豊富でフルーティなハチミツ、季節の果実を使ったマーレード、素朴な味わいのライ麦パンやクルミパン、「黒い黄金」と呼ばれるシュタイヤマルク州のパンブキンシードオイル、チロル地方の伝統チーズなど。どれも“生産者の顔が見える”安心・安全な逸品。ぜひファーマーズ・マーケットを訪れて、旬の味覚とともにオーストリアの食文化を体験してみてください。



伝統的なウィーンのホイリゲ
マイヤー・アム・プファールプラッツ



ブルゲンランド州のホイリゲ



ヴュルステルシュタントの店内

オーストリアで “食の愉しみ”を満喫する

人生を謳歌することに長けたオーストリア人のお気に入りスポットをご紹介します。また、様々な文化を融合させたオーストリア料理をいくつかご紹介しましょう。

ぜひ足を運びたい 食のスポットいろいろ

ワイン居酒屋「ホイリゲ」:

ワイン農家が経営する居酒屋「ホイリゲ」は、元々「今年の」を意味する言葉で、新酒のワインを聖マルティン祭の日(11月11日)に解禁したことが由来です。ブドウ畑を眺めながら、自家製ワインと一緒に家庭料理を味わえます。特に野外テラスが開放される時期は快適そのもの。この歴史あるウィーンのホイリゲ文化は2019年、オーストリアのユネスコ無形文化遺産に登録されました。

ホイリゲでの食べ物はウィナー・シュニッツェルなどの温かい肉料理や、チーズや自家製ハム、ソーセージやバーベキュー、サラダなどがあり、ビュッフェ・コーナーのセルフサービスで買ってくる形

式のところもあれば、普通のレストランのように注文して運んでもらうところもあります。白ワインをソーダやミネラルウォーターで割った「ゲシュプリッツター」も、軽くて爽やかな味わいで人気です。ホイリゲは、ウィーンやニーダーエステライヒ州、ブルゲンランド州、シュタイヤマルク州のワイン生産地にあります。

ケルンテン州のホイリゲ



地元の居酒屋「バイスル」:

オーストリア人には3つの拠りどころがあります。それはホイリゲとカフェ、そして昔ながらの居酒屋「バイスル」です。典型的なバイスルの設えは、木製バーカウンターと壁の黒板で、そして手書きメニューの黒板です。ウィナー・シュニッツェルやクネーデル(団子)、グーラッシュといった温かい家庭料理や、パラチンケンやカイザーシュマレンといったデザートなど、純粋なオーストリアの伝統料理を提供しています。ビールや地元ワインとともに気軽に食事ができる庶民的な店で、常連客が集う“シュタムテイッシュ(常連席)”が置かれていることもあります。ランチメニューがある店が多く、ウィーンをはじめ全国にあります。

ソーセージスタンド

「ヴュルステルシュタント」:

広場や停留所など、人の集まる場所にある屋台。マスタードを添えたソーセージとパンを、立ったまま気軽に頬張るのが定番です。特におすすめは、チーズ入りソーセージ「ケーゼクライナー」。そのレシピはスロヴェニアに由来しますが、溶けるチーズを加えたスタイルは

オーストリア発祥で、今では代表的なソウルフードとなっています。日本ではあまり見かけない「レバークーゼ」(肉と香味野菜を練り、四角く成形して焼き上げた料理)をパンに挟んだレバークーゼセンメルもぜひ試してみたい一品です。ビールなどの飲み物も用意されています。

夜遅くまで営業する店も多く、コンサートやオペラの帰りに立ち寄る人の姿もよく見られます。全国にあります。2024年に、オーストリアのユネスコ無形文化遺産に登録されました。

この他、人気の美食スポットはまだあります。カフェは5ページ、ケラーガッセとシャニガルテン(ピアガーデン)は12ページ、山小屋「アルムヒュッテ」は13ページをご参照ください。

© Left (from top to bottom): Österreich Werbung/ Stefan Strasser, Sebastian Burzival; Right (from top to bottom): Österreich Werbung/ Christian Kremser, Kaernten Werbung/ Edward Grogger

イチ押し オーストリア料理

ウィナー・シュニッツェル：
ヴェネツィアに端を発する、仔牛肉や豚肉を薄く伸ばしたウィーン風カツレツ。一説には1857年頃、有名な帝国軍指揮官ラデツキーによりオーストリアに持ち込まれた、と伝えられています。どちらにせよ、皇帝時代のオーストリアで、この料理が今日のシュニッツェルのスタイルとして完成され、「これぞ絶品料理」として有名になったのです。ビールによく合います。

リンツァートルテ：
リンツ発祥の伝統菓子は、世界最古のレシピを持つ焼き菓子のひとつで、文献に初めて登場したのは1653年でした。ナッツの香ばしい生地と甘酸っぱいラズベリージャムを合わせた、格子模様のリンツァートルテを有名にしたのは、フランケン地方出身のヨハン・コンラート・フォーゲルでした。彼は1822年にリンツの菓子工房で働き始め、リンツァートルテを一種の大量生

産で製造することを始め、お土産品として定着させることに成功しました。

マリレンクネーデル (アンズの団子)：

マリレンクネーデルは、ドナウ川地域ヴァッハウ渓谷の真髄であり、また、オーストリア人のオープンさを表しています。つまり、このマリレンクネーデルは、中国のフルーツ(アンズ)とインド洋の植物(砂糖)とボヘミアの調理法(団子)からできているのです。そのうえ、「ヴァッハウ渓谷産アンズ」はヨーロッパレベルでその品質が保証されており、アンズの最高品質に位置付けられています。

マリレンクネーデル



ウィナー・シュニッツェル



マスのフィレ 森のキノコ添え



カイザーシュマレン

マスのフィレ 森のキノコ添え：
大きなマスは、水深が深くて酸素の多い湖を棲家としており、国境は行く手を阻むものではありませんでした。マスは、北ロシア、スカンジナビア、バルト三国、そしてオーストリアの湖などに生息しており、真の意味でグローバルに生息している魚類といえるでしょう。かつてケルンテン州のヴァイセンゼー湖とミルシュテッターゼー湖では、湖の主な生息種でした。オーストリアのグルメはマスを好み、「マスのフィレ 森のキノコ添え」はオーストリアのどこでも食べられる料理です。

カイザーシュマレン：
オーストリア＝ハンガリー二重帝国は、多くの民族が双頭の鷲の下に統一されていました。皇帝フランツ・ヨーゼフ1世は、非常に質素なものを好み、郷土のものに愛着がありました。皇帝は卵、小麦粉、牛乳、砂糖少々から作る柔らかなカイザーシュマレンのような簡単な生地の料理を好んで食しました。しかしこの料理が、単に失敗して崩れてしまったオムレツにルーツを持つのか、カーザー(酪農家)が食卓に出していた栄養満点の軽食が元となっているのか、未だにはっきりしていません。

Google マップ 「オーストリアのオススメ」リスト

地図アプリ「Google マップ」にオススメスポットを集めたリストを作成しました。AIにより情報がリアルタイム更新されるので、経路検索や、施設の営業状況の確認もできます。旅行計画や現地での街歩きにお役立てください。





ウィーン、ベルヴェデーレ庭園隣接のビアガーデン

オーストリアの ワイン・ビール・シュナップス

オーストリアはワインもビールも蒸留酒も魅力的。
土地の個性が光る酒文化を味わいましょう。

ワイン

ここ20～30年で、オーストリア・ワインは着実に進化してきました。その結果、ニーダーエステライヒ州のグリューナー・フェルトリーナー、シュタイヤマルク州のソーヴィニヨン・ブラン、ブルゲンランド州のブラウフレンキッシュは、東京やニューヨークなど海外の主要都市でも高い評価を得ています。

レストランやバイスルで味わうのはもちろん、ワイン生産地を訪ねるのもオススメ。夏には、ワイン貯蔵庫（ケラー）が並ぶ小路「ケラーガッセ」を中心にワイン祭りが開かれ、各ケラーを巡りながら醸造家自慢のワインと料理を楽しめます。ワイン祭りは各地で行われますが、特にニーダーエステライヒ州が有名です。

ビール

オーストリアは、一人当たりの年間ビール消費量が世界第二位を誇るビール大国。何世紀にもわたる醸造技術によって、伝統的で質の高い味わいのビールが造られています。

そんなビールを楽しむのにオススメなのがビアガーデン。特にザルツブルク周辺に多く見られます。夏になるとレストランやカフェのテラス席が賑わい、ウィーンではこれを「シャニガルテン」と呼びます。ビールのほか、ニワトコの花のシロップで作るホルンダーブルーテンジュースや、白ワインを水で割ったゲシュプリッツターも人気です。

シュナップス

アルコール度数の高い蒸留酒シュナップス。オーストリアではアンズ、洋梨、スモモ、ラズベリーなどの果実を使ったものが一般的で、松ぼっくりをスピリッツに漬けたユニークなものもあります。

地域ごとに特色があり、チロル州では香り高い果実ブランデー、シュタイヤマルク州では火山地帯の果実を使ったものが有名。ザルツブルク州では森のアロマを感じる蒸留酒が造られ、果実栽培が盛んなオーバーエステライヒ州では自家果樹園のフルーツを使ったシュナップスが作られています。お土産にもオススメです。

アルプスの展望レストランと 山小屋料理の楽しみ方

山のパノラマを眺め、自然にふれあいながら、
忘れられない食の思い出を作りましょう。



ピッツタール氷河のカフェ 3440

オーストリアには、卓越した料理や上質な飲み物に加え、食事そのものを特別な体験に変えるユニークなロケーションがあります。例えば、雪や氷で作ったイグルー・バーでカクテルを楽しむ、ウィーンの大観覧車のゴンドラで食事をする、伝統的な木造船に乗って湖上で新鮮な魚料理を味わうなど。なかでもアルプス山頂のレストランや山小屋では、雄大な峰々を望みながら開放感あふれる食の時間を楽しめます。

スキーはもちろん、ハイキングやケーブルカーで山に登れば、山頂のレストランやバー、山小屋、パノラマテラスなどで、その地方ならではの料理を味わうことができます。チロル州のピッツタール氷河にある「カフェ3440」やセルデンの「アイスQ」、ザルツブルク州キッツシュタインホルンの「ギプフェル・レストラン」、オーバーエステライヒ州バート・イッツシュルの「シリウスコーゲル」など、絶景と美食を楽しめる山頂レストランが各地にあります。

アルプスの牧草地（アルム）に建つ山小屋での食事もおすすです。アルムの山小屋はもともと夏の放牧期に酪農従事者が暮らした小屋ですが、現在は多くがレストランとして利用されています。ハイキングの途中に立ち寄り、景色を眺めながら素朴な料理でひと休みするのは、アルプス旅行の大きな楽しみのひとつです。

素朴な木造ヒュッテでは、温かなもてなしとともに、手作り料理やサワー種の黒パンが味わえます。定番は「ブレットルヤウゼ」。ハムやベーコン、チーズ、野菜などを木の板に盛り合わせたボリューム満点の一品で、冷えたビールやワインによく合います。こうした山小屋はフォアアールベルク州、チロル州、ザルツブルク州など、オーストリア西部のアルプス地方のハイキングコース沿いに多く点在していますが、その他の地域にもあります。



ウィーン少年合唱団



ザルツブルクのアートプロジェクト
エルヴィン・ワウムによる
《グルケン（きゅうり）》



オーストリア
について

アウガルテン磁器

芸術の国 オーストリア

オーストリアは長い歴史を通じて音楽と美術の保護を旗印に掲げ、他国ではほとんど例がないほどの資金と労力を注いできました。

オーストリアの音楽

ヨーロッパの中心に位置するオーストリアは、古来より様々な文化が交錯し、豊かな文化と歴史を育んできました。中でも「音楽」は、この国を紹介する上で最も重要な代名詞です。世界的に名高いウィーン国立歌劇場、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン少年合唱団、ウィーン・フォルクスオーパーなどは、オーストリアの文化使節としても活躍しています。オーストリアの音楽史上「ウィーン古典派」は、偉大な文化遺産の一つに数えられます。そのウィーン古

典派は、ハイドンに始まり、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトが含まれます。ロマン派を代表するのは、ブラームス、ヴォルフ、ブルックナー、マーラーです。ヨハン・シュトラウスとフランツ・レハールはオペレッタの分野で名を馳せ、そして、シュランメル兄弟の音楽は、ウィーンのワイン居酒屋「ホイリゲ」と切っても切れない関係にあります。毎年各地で開催される数多くの音楽祭や芸術祭には、世界中から音楽ファンが集まります。詳しい情報は20~21ページに掲載していますので、ご覧ください。また、ウィーン・フィルのニューイヤーコンサートとシェーンブルン宮殿庭園での夏のコンサートは毎年、世界中に中継・放映され、音楽ファンを楽しませてくれます。

オーストリアの美術コレクション

帝国の時代、ハプスブルク家の人々は芸術品収集に情熱を傾け、幾世紀にわたり世界中から数多くの絵画や美術品の名作が集められました。現在、オーストリア全国にはルーベンスやプリューゲル、ペラスケスなど古典の大家から新進の現代芸術家までの作品を擁する約1,000の美術館・博物館があります。特に人気の高い世紀末芸術の「ユーゲントシュティール」様式を代表するグスタフ・クリムトや表現主義様式のエゴン・シーレ、オスカー・ココシュカの絵画は、世界的な名声を博しています。

オーストリアのデザイン

百数十年も前から受け継がれている職人たちの手仕事を現代に再現した「ウィーン・プロダクツ」認定企業の製品をはじめ、オーストリア発のアクセサリやファッションが世界的に注目されています。特に、豊かな文化遺産と若く活力あるクリエイティブシーンの両面を持つウィーンは、まさにクリエイティブ業界の中心地です。また、全国にあるカフェやレストラン、ホテルなどでも、オーストリア独自のデザインを感じることができます。

オーストリアならではの逸品

アクセサリをお求めなら、日本でも人気の高い「スワロフスキー」のショップを訪れてみてください。ヴァッテンスの本社に隣接するクリスタルワールドの他、インスブルック、ザルツブルク、ウィーンやウィーン空港にショップがあります。伝統的な品物なら、高級磁器セットの代名詞「アウガルテン」、美しいクリスタルガラス製品の「ロプマイヤー」、テーブルウェアやリネンのお店「シュヴェービッシュ・ユングフラウ」、ユーゲントシュティールの美術工芸品やウィーン・プロダクツ商品を扱う「オーストリア工房」、歴史的なデザインによる家具やインテリアを生産する「フリードリッヒ=オットー・シュミット」など。ウィーンのファッションでは、バラエティー豊かな帽子店「ミュールパウアー」、民族衣装に現代的なエレメントを加えた「レナ・ホシェック」、時代を超越したファッションを展開する「ピア・ミア」、アイウェアのお店「シャウシャウ・ブリレ」などが人気です。ウィーンでちょっとした小物をお探しなら、ナチュラルコスメティックスの「セントチャールズ・コスメトカリー」、モダンなハンドメイド陶器の「マノ・デザイン」、雑貨店「アンナ・シュタイン」など。地域の伝統工芸品では、かわいいた花柄や渦巻き模様のグムデン陶器、美しい民族衣装のディアンドルや厚手のウールジャケットのヴァルルカンカー、レーダーホーゼンなどもオススメです。

グスタフ・クリムト
「ウィーン大学の天井画」(復元)

世紀末を駆け抜けた クリムトとシーレ

クリムトの代表作『接吻』はベルヴェデーレ宮殿、
シーレの作品はレオポルド美術館で主に見ることができます。

19世紀末に興ったアール・ヌーヴ
オーは、オーストリアでは「ユーゲ
ントシュティール」と呼ばれていま
す。「時代にはその芸術を、芸術に
はその自由を」をモットーに、19
世紀末のウィーンにはグスタフ・ク
リムトを筆頭に、エゴン・シーレ、オ
ットー・ワグナーのほか偉大な
芸術家たちが登場しました。

オーストリアを代表する画家グス
タフ・クリムトは、1880年代初頭、
弟のエルンストと友人フランツ・マ
ツチュの3人で芸術家商会「キュ
ンストラークカンパニー」を設立し、オ
ーストリア＝ハンガリー帝国全土
にわたる数多くの建物の壁画と天
井画の制作を委託されます。その
後、保守的な美術家協会を脱退し、「セ
セッション(分離派)」の名
のもとに、新しい芸術家グループ
を結成。また、才能溢れる若き芸
術家たちの後援者として確固たる
地位を築きます。

いままクリムトが手掛けた歴史主
義時代の壁画は、ブルク劇場や美
術史博物館の階段ホールなどで
見ることができます。代表作の『接
吻』や『死と生』、分離派会館の壁
画『ベートーヴェン・フリース』は
世界中の人々に親しまれています。

一方、エゴン・シーレは学校時代
から授業中にいつも絵ばかり描い
ていて、決して成績の良い生徒で
はありませんでした。しかし、美術
教師だけは彼の才能を見抜き、シ
ーレは16歳で造形美術アカデミ
ーの入学が認められました。

ウィーンでシーレはグスタフ・ク
リムトと知り合い、次第にクリム
トの影響を大きく受けることにな
ります。その後、わずか2年でシ
ーレは超保守的なアカデミーを去り、
芸術的功績を模索するため、友人
たちと「新たなる芸術団」を結成し、
リーダーを務めました。

シーレは常に良い友人や後援者
に恵まれ、仕事の依頼も多く得て
いました。一般的にはシーレの画
は前衛的でユニークで、挑戦的と
評価されていました。その神経質
ながら粗い線により肉体的な特徴
が誇張され、精神状態の不安定さ、
表現主義における脆さが明確に
表れていました。

保守的な風潮の中、当時タブー
視されていたテーマを追求し続け
たクリムトとシーレは、絆を深め、
28歳という年の差がありながらも、
互いを理解し合う友人関係であ
ったといわれています。



エゴン・シーレ
「ほおずきの実のある自画像」

偉大な音楽家

モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、 ブルックナー、ヨハン・シュトラウス2世

音楽を抜きにしてオーストリアは語れません。
オーストリアゆかりの5人の偉大な音楽家をご存知ですか？
世界中の人々を魅了する音楽の国オーストリアへお出かけください。

ヴォルフガング・ アマデウス・モーツァルト (1756-1791)

モーツァルトは合計626もの作品
を作曲しましたが、彼は当時とし
ても短命で、わずか35才までしか
生きられませんでした。モーツァ
ルトは12才になるまでに、既に3つ
のオペラ作品、6つの交響曲と何
百もの作品を作曲しています。そ
の天才的な才能は、当時の人々を
感動させただけでなく、モーツ
ァルトの驚異的な作曲能力に対す
る人々の感嘆は、今なお生きてい
ます。

そして、現在に至るまで「モーツ
ァルト・マニア」の熱情は少しも衰
えてはいません。実際に、ビジネ
スの面でも、その他の様々な事
においても、モーツァルトほど成功
を収めた音楽家はいません。オース
トリアのポップスター、ファルコは
1986年に米国のポップチャートに
『ロック・ミー・アマデウス』とい

曲で席卷し大ヒットを飛ばしまし
た。ミロス・フォアマン監督は、映
画『アマデウス』で、1984年に8つ
の部門でオスカーを獲得しました。
アン・デア・ウィーン劇場では、ミ
ュージカル『モーツァルト!』の公
演で連日満員という大ヒット興行
成績を収めました。

ルートヴィヒ・ヴァン・ ベートーヴェン (1770-1827)

1770年12月、ドイツのボンに生
まれたベートーヴェンは、幼いう
ちから才能に恵まれ、14歳にして正
式に宮廷楽師となり、そして1787
年には、さらなる勉強のため、当
時ウィーンで活躍していたモーツ
ァルトへの弟子入りを試みます。
かねてから憧れていたモーツァ
ルトには、多忙を理由に師事を断
られ、さらに母の危篤の知らせに
よりボンへ戻ることになります。

ザルツブルク、カプツィナーベルクの
モーツァルト像





ウィーン、ベートーヴェン広場のベートーヴェン像

22歳のときに再びウィーンを訪ねましたが、モーツァルトは早世していたためハイドンやサリエリ、アルブレヒツベルガーらに師事します。以降35年間にわたりウィーンで暮らし作曲活動をしました。

ウィーンでの生活は順調で、ピアノの即興演奏や作曲活動で名声を得ていきましたが、20代後半の頃より持病の難聴が徐々に悪化。治療のため、彼はハイリゲンシュタットにあった保養施設を頻繁に訪れましたが治らず、その絶望感から何度も自殺を考えます。現在はベートーヴェン博物館として改装されたアパートで有名な『ハイリゲンシュタットの遺書』を書きました。しかし音楽への情熱を胸に、困難の中、珠玉の作品群を創り上げたのです。

生家に飾られたシュベールの肖像画

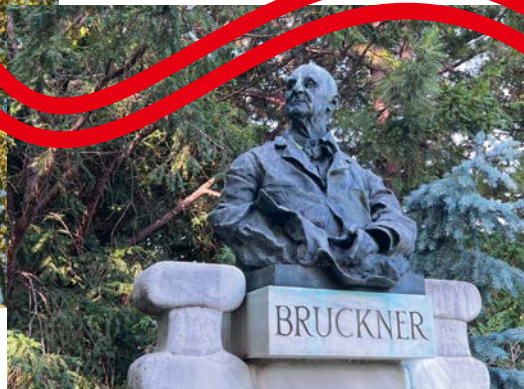


フランツ・シューベルト (1797-1828)

ウィーンに生まれ、ウィーンで生涯を過ごした作曲家フランツ・シューベルトは、歌曲(リート)の王と呼ばれています。作曲した中には600を超える歌曲があり、美しいメロディーという点で、音楽史上最も創造的な作曲家の一人であることは間違いでしょう。シューベルトはゲーテの『魔王』や『糸を紡ぐグレートヒェン』などの詩を楽曲にしました。

シューベルトは、憧れの音楽家であったベートーヴェンが亡くなった翌年の1828年11月、兄のフェルディナントのアパートで亡くなりました。その時、フランツはまだ31才でした。又スドルファー通りにあるシューベルトの生家は、現在改修工事のため休館中。2028年のシューベルト没後200周年を記念して、2028年に新たな常設展示を開設する予定です。

今日のシュヴァルツェンベルクとホーエネムスで行われる「シューベルトティアデー」は、世界最高峰のシューベルト音楽祭として世界中のシューベルトファンを魅了しています。



ウィーン市立公園のブルックナー像

アントン・ブルックナー (1824-1896)

交響曲の大家であり、オルガン奏者としての才能にも恵まれたアントン・ブルックナーは、19世紀後半で最も重要な作曲家の一人と言われています。1824年、リンツ郊外のアンスフェルデンで村の学校教師を務める父のもと12人の子供の長男として生まれました。父親が亡くなった12歳よりサンクト・フローリアン修道院で宗教と音楽の教育を受けることになります。1840年にはこの修道院の教師兼オルガン奏者となり、20代前半で最初のモテットとレクイエムを作曲しています。1855年、ブルックナーはリンツ大聖堂のオルガニストに就任し、職業音楽家となりました。

ブルックナーは敬虔なカトリック教徒であり、メランコリックで孤独を好み(いつも若い娘に夢中になっていたものの)、生涯独身で、帝政時代のゴシップ社会を嫌っていました。また、作曲以外の時間は自然の中で過ごしました。ドナウ川やブドウ畑、草原、そして深く悠久の森のすべてが、彼のインスピレーションの源となっていました。30代になってからウィーンを訪れ、作曲の勉強や音楽活動を行い、1868年にはウィーンに移住しまし



ウィーン市立公園のシュトラウス像

た。今日ブルックナーは、ブラームスやワーグナーと並んで19世紀後半で最も影響力のある作曲家と見なされています。

ヨハン・シュトラウス2世 (1825-1899)

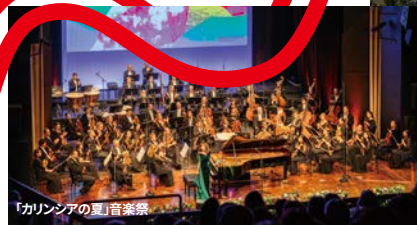
「ワルツ王」と称えられるヨハン・シュトラウス2世は作曲家、ヴァイオリニスト、そして指揮者として、ロンドン、パリ、ベルリン、サンクト・ペテルブルク、ボストン、ニューヨークをはじめとする世界各国の都市で演奏旅行を行い、ウィーンのみならずオペレッタの真髄を広めました。ウィーン市立公園に立つ金色の像は、ウィーンを訪れる人々にとって絶好の撮影スポットとなっています。彼を代表するワルツ『美しく青きドナウ』は、オーストリアの「第二の国歌」と呼ばれるほどの人気を集めました。そして、オペレッタの中で最も有名な作品は、1874年にアン・デア・ウィーン劇場で初演された『こうもり』です。



ブレゲンツの湖上舞台「ゼービューネ」



ザルツブルク音楽祭『イエーダーマン』



「カリンシアの夏」音楽祭



ブレゲンツの森地方のシュヴァルツェンベルクで開催されるシュベルティアーデの音楽家たち

オーストリアの 主な音楽祭

オーストリアでは年間を通して各地で音楽祭が開かれ、一流の演奏者が腕を競います。地域の文化に触れたり、郷土料理を味わったりするのも楽しみです。

モーツァルト週間 (1~2月)：ザルツブルクで誕生日の1月27日を挟んで2週間開催。ウィーン・フィルやモーツァルト管弦楽団などが市内複数の会場でモーツァルト作品を中心に演奏します。

ザルツブルク・イースター音楽祭 (4月)：1967年にヘルベルト・フォン・カラヤンにより創設。プログラムはオペラ、コンサート、合唱曲、室内楽、若者のためのプロジェクトから成っています。

ウィーン芸術週間 (5~6月)：オペラ、コンサート、パフォーマンス、展示会、国際共同プロジェクトなど多ジャンルの芸術が一堂に会し、街全体がステージに。

ザルツブルク音楽祭 (7~8月)：第一次大戦後の荒廃したヨーロッパの人々を和解させることを目的に創設され、現在は世界最高峰の音楽祭の一つ。演劇やオペラも上演され、街全体が祝祭ムードに包まれます。

ライディングのリスト音楽祭 (3, 6, 10月)：1811年にブルゲンランド州ライディング村で生まれたフランツ・リストを称える音楽祭。生家（現在は博物館）の隣のコンサートホールで開催。

レハール音楽祭 (7~8月)：オペレッタ作曲家フランツ・レハールを記念した祝祭。レハールが別荘を保有し、名誉市民でもあった温泉保養地バート・イッシェルのクアハウスで開催。

シュティリアルテ音楽祭 (6~7月)：グラーツ歴史地区とエッゲンベルク宮殿をはじめ、シュタイヤマルク州各地で毎夏開催。ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス、シュティリアルテ音楽祭管弦楽団など初期古典音楽の名手が出演。グラーツ市民公園の野外オープニングコンサートは入場無料。

「カリンシアの夏」音楽祭 (7~8月)：カリンシアとはケルンテン州の英語名。会場となるのは、バロック装飾が美しいオシアツァ修道院、アルバン・ベルク・ホール、フライハの会議センター、クラゲンフルトの大聖堂、ギュンター・ドメニクのアヴァンギャルドなシュタインハウス、城館や教会など。

インスブルック古楽器音楽祭 (8月)：かつて音楽の中心地であった古都インスブルックで1976年から続く、初期古典音楽の祭典。旧市街の歴史的建築物群を会場に、オペラやアンサンブル演奏が披露されます。

メルビッシュ湖上音楽祭 (7~8月)：ユネスコ世界遺産のノジードラーゼー湖で繰り広げられる、夏の夜の音楽祭。ミュージカルまたはオペレッタが湖上舞台上で上演されます。上演日はウィーンからシャトルバスが運行。

ブレゲンツ音楽祭 (7~8月)：オーストリア西端、ボーデン湖畔の町ブレゲンツで毎夏約1か月開催される国際音楽祭。1946年創設で、2026年は80周年を迎えます。名

物は湖上に設けられた世界最大級の水上舞台「ゼービューネ」でのオペラで、巨大な舞台装置とダイナミックな演出が見どころ。演目は2年ごとに替わり、2026/27年はヴェルディの『ラ・トラヴィアータ』。このほか祝祭劇場など市内各会場でもオペラやコンサートが上演されます。

サント・マルガレーテン野外オペラ (7~8月) と受難劇 (5~7月)：古代ローマ時代からの採石場を天然の舞台・音響装置として上演される大規模オペラ。作品は毎年替わり、2026年は『トスカ』を予定。主催はエスターハーザー財団で、幕間に地元ワインを楽しめるのも魅力。同会場では5年ごとにキリスト受難劇も上演され、2026年に開催されます。

グラーフエネック音楽祭 (8~9月)：ウィーン近郊、グラーフエネック城の庭園にある野外舞台他でのコンサートがメインですが、城敷地内のレストランで味わうディナーも欠かせない楽しみ。周辺の生産地から直送のワインをご賞味あれ。

シュベルティアーデ (4月~10月)：シュベルトを記念する音楽祭。シュヴァルツェンベルクは6, 8月、ホーエナムスは4, 5, 7, 10月、オーストリア最西端のフォアールベルク州で開催されます。

© Left (from top to bottom): Bregeenz Tourismus/Christoph Lingg, Tourismus Salzburg GmbH, Tourismus Salzburg GmbH, Christiane Szcz, Tourismus Stadtmarketing GmbH, Right (from left to right): Carinbischer Sommer/marygoodfoto, Regenzwald Tourismus/Christoph Lingg



チロル州のブランカゼー湖

オーストリアの 自然でリフレッシュ

豊かな森の中、
エメラルド色の湖畔で過ごすひととき。
自然は心と体を落ち着かせ、
気分をリフレッシュする
効果をもたらします。



ホーエ・タウエルン
国立公園

最高の水質で水遊び

アルプスの氷河が溶けて形成された湖が点在するオーストリアは、2021年の欧州環境機関（EEA）による調査で水浴場261ヶ所のうち255ヶ所（97.7%）が「優良」、国内の全水域の合計99.2%が「優良」または「良」と評価され、EU水浴水質ランキング1位に輝きました。これは過去数十年間に500億ユーロもの投資をして高い水質を保ってきた成果といえるでしょう。オーストリア人が「クリスタル・クリア」と誇る美しく清浄な湖での水浴は、日常的なレジャーです。



野外の音楽会場「雲の塔」
グラーツフェネック音楽祭

グリーンな都市

オーストリアの都市は緑が多く、郊外には自然が広がっています。例えば首都ウィーンは、市街地の半分は緑地や水域で、数多くの公園があるほか、ウィーンの森の一部は絶滅危惧種の保存公園にも指定されています。公共交通機関の整備やグリーンエネルギーの利用等、持続可能性を高める試みも絶え間なくおこなわれています。

自然に包まれ音楽に親しむ

室内ホールだけではなく、大自然も公演会場になるのがオーストリアです。

毎年初夏の一夜、シェーンブルン宮殿の広い庭園でウィーン・フィルによる「サマーナイト・コンサート」が開催されます。緑薫る外気にあたりながら世界最高レベルの演奏を聴くのは格別の楽しみです。入場はなんと無料。

夏恒例の「音楽フィルムフェスティバル」では、ウィーン市庁舎広場に大型スクリーンが設けられ、オーケストラやオペラ、バレエ等の映像が放映されます。屋台で軽食をつまむのも楽しみ。こちらも入場無料です。

また、ウィーン近郊のグラーツェネックでも毎夏野外フェスティバル「グラーツェネック音楽祭」が開かれています。19世紀に建てられたグラーツェネック城と自然のコントラストが美しい音楽祭で、開催日にはウィーンからバスが運行します（21ページ参照）。

オーストリアの国土の

63%
が高地アルプス



オーストリアは
ヨーロッパに広がる全アルプスの
最も広い29%を占める

© Left (from top to bottom): TVB Paznaun-Ischgl, Nationalpark Hohe Tauern Kaernten/ Franz Gerdt, Right (from top to bottom): GreenEnergy Festival/ Alexander Haiden, Österreich Werbung



アイゼンシュタットのエステルハーゼ宮殿



グラーツの州庁舎



リンツのハウプトプラッツ広場



レヒのスキー場

個性あふれる 9つの州

オーストリアは9つの連邦州からなる共和国です。
各州には独特の気候風土と文化があります。

ウィーン

オーストリアの首都。ハプスブルク帝国640年の古都であり、芸術の都。その一方でモダンな建築物も多く、新しいカルチャーも発信しています。市の周縁に約1,350km²に渡って広がるウィーンの森は、人々の憩いの場であるとともに良質のワインの生産地です(28ページ参照)。

ニーダーエステライヒ州

ウィーンを囲む州。州東側の丘陵地帯は国内随一のワイン産地で、北部は森林で覆われています。バロック様式の修道院が建つメルクとクレムス間のドナウ川流域は「ヴァッハウ渓谷」と呼ばれる人気の景勝地で、ユネスコ世界遺産に登録されています。州都はサンクト・ペルテン。

ブルゲンランド州

オーストリアの東端、ハンガリーとの国境の州。世界遺産のノイジードラーゼー湖を有し、野鳥の宝庫ゼーヴィンケル国立公園、コウノトリがコロニーを作るルストなどがあります。夏は湖畔の町メルビッシュで湖上音楽祭が、採石場サンクト・マルガレーテンで野外オペラが上演されます。良質なワインの産地としても有名。州都はハイドントエステルハーゼ侯爵家ゆかりの街アイゼンシュタット。

シュタイヤマルク州

オーストリア南部、「緑の州」と呼ばれるほど豊かな緑地に牧歌的な村が点在しています。スロヴェニア国境の南シュタイヤマルク地域はワイン産地で、ブッシェンヤンクと呼ばれる生産者の直営店を訪れるのがオススメです。パート・アウスゼー周辺はザルツカンマーグート(湖水地帯)の一部で、アルプスらしい山と湖の景観が広がります。州都はグラーツ(40ページ参照)。

© Left (from top to bottom): Esterházy Benébe GmbH, Österreich Werbung/Julius Silver, Right (from top to bottom): Tourismregion Kugelmohr am Woerthersee/FRGpress, Lech Zuers, Tourismus GmbH/Josef Hellbauer

ケルンテン州

オーストリア最南部の州。ヴェルターゼー湖、オシアッハゼー湖、ミルシュテッターゼー湖をはじめとした大小の美しい湖が点在し、水泳や水上スポーツが盛んです。州の最北端にはオーストリア最高峰のグロースグロックナー山が秀麗な姿を見せています。州都のクラゲンフルトは、バロックとユーゲントシュティールの建物が建ち並び、小規模ながら芸術と文化の薫り高い見どころが満載。

オーバーエステライヒ州

オーバーエステライヒ州随一の観光地は、ザルツカンマーグートと呼ばれる湖水地帯。特に中心都市であるバート・イッシュルは、ハプスブルク家御用達の温泉保養地として発展しました。州の北側に位置するミュールフィアテルの丘陵地帯は、チェコとの国境を形成しています。州都のリンツは音楽家ブルックナーゆかりの街。デジタルアートの中心地としても世界的に有名。

ザルツブルク州

生物多様性が豊かなホーエ・タウエル国立公園を含むアルプス地方。その美しさは、映画『サウンド・オブ・ミュージック』で世界的に有名になりました。地名の由来でもある岩塩鉱や、聖歌『きよこの夜』誕生の地オーベルンドルフ、世界最大の氷穴があるヴェルフェンも見どころです。州都はザルツブルク(35ページ参照)。

チロル州

牧歌的な山の風景で知られるチロル州。インタール渓谷に沿って、インスブルック、ハル、ラッテンベルク、クーフシュタインといった魅力的な町が並びます。また、ツィラータール、シュトゥーバイタール、エッツタール、サンクト・アントン、ゼーフェルトといった山岳リゾートには、冬はスキー、夏はハイキングを楽しみに国内外から観光客が訪れます。州都はインスブルック(44ページ参照)。

フォアアールベルク州

オーストリア最西端の州。面積は小さいながら、シルヴレッタの氷河からライン渓谷の平地に至る、変化に富んだ自然が特徴です。州都ブレゲンツでは毎夏「ブレゲンツ音楽祭」が開催され、湖上舞台で壮大なオペラを鑑賞できます。アールベルク地方はアルペンスキーの発祥地。世界中の王族やセレブが訪れる高級リゾートです。なかでもレヒは「欧州で最も美しい村」に選ばれました。

オーストリア地図 位置と距離

オーストリアは中央ヨーロッパの南部に位置し、
国土の総面積は 83,858 平方キロメートル、人口は約 920 万人。
公用語はドイツ語ですが、英語もよく通じます。



リヒテンシュタイン

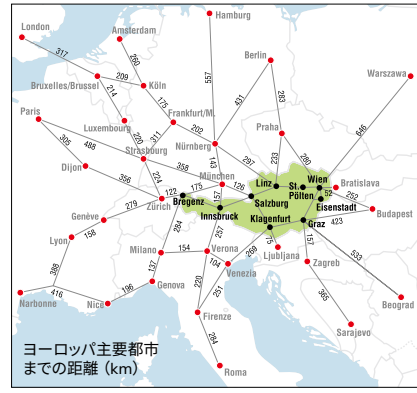
スイス

イタリア



© Ed. Hölzel, Wien

- アウトバーン
- - - - - 建設中のアウトバーン
- 高速道路
- - - - - 建設中の高速道路
- 幹線道路
- 主要道路
- その他道路
- 鉄道
- ✈ 国際空港
- 国境
- 州境



9つの州と州都



州都間の距離

(km)	ブレゲンツ	アイゼンシュタット	グラーツ	インスブルク	ヴァーグフルト	リンツ	ザルトツブルク	ザルトツブルク	ウィーン
ブレゲンツ	-	769	700	187	575	547	429	656	720
アイゼンシュタット	769	-	183	582	307	232	347	113	55
グラーツ	700	183	-	513	133	215	255	190	210
インスブルク	187	582	513	-	377	360	242	469	533
ヴァーグフルト	575	307	133	377	-	257	212	339	335
リンツ	547	232	215	360	257	-	118	121	185
ザルトツブルク	429	347	255	242	212	118	-	230	294
ザルトツブルク	656	113	190	469	339	121	230	-	65
ウィーン	720	55	210	533	335	185	294	65	-

© Map, Ed. Hölzel, Wien



シェーンブルン宮殿

シュテファン大聖堂



ウィーンについて



市民庭園

ベルヴェデーレ宮殿
クリムトの『接吻』

ウィーンの見どころ

華麗な宮廷文化が息づく、芸術の都ウィーン。
古くよりヨーロッパの東西と南部を結ぶ十字路として栄えました。

古代ローマ人の入植以来、二千年の歴史を持つウィーン。ハプスブルク帝国の都として栄華を誇り、重厚な歴史建築や音楽・美術が見どころです。最近では現代建築やデザイン、そしてサステナビリティの発信地としても注目されています。

シュテファン大聖堂

鮮やかな屋根が映えるウィーンのシンボル。南北2つの塔からは街が一望にできます。石造りの説教壇や祭壇を彩る絵画などの内部装飾は必見。カタコンベ(地下墓地)には歴代皇帝の臓器が安置されています。

[MAP] P.33 B-3

シェーンブルン宮殿

ユネスコ世界遺産に指定されたハプスブルク家の夏の宮殿で、マリア・テレジア・イエローの外観が印象的です。ロココ様式で統一された1,441の部屋のうち40室を公開中。ウィーン会議で舞踏会場として使用された大広間、6歳のモーツァルトが御前演奏した鏡の間は必見です。

宮殿の後方に広がる面積1.7km²の庭園には、シェーンブルン(美しい泉)の名前の由来となった泉、1752年設立の世界最古の動物園、大温室パルメンハウス、ネプチューンの噴水、迷路庭園、日本庭園があります。ギリシャ神殿風のグロリエッタはカフェとして営業しており、宮廷馬車博物館には歴代の皇族が乗った豪華な馬車が展示されています。

www.schoenbrunn.at

ベルヴェデーレ宮殿

対トルコ戦争の時代、ハプスブルク軍の将軍だったサヴォイ家のオイゲン公(1663~1736)の夏の離宮であり、ヨハン・ルーカス・フォン・ヒルデブラント設計によるバロック宮殿の最高傑作。式典用の上宮と居住用の下宮が、緩やかに傾斜したバロック庭園で結ばれています。

現在は美術館で、上宮は『接吻』を筆頭とする世界最大のクリムト作品群が目玉です。下宮は特別展の会場となるほか、バロック美術の名作が展示されています。

[MAP] P.33 D-3,4

www.belvedere.at

リング通り

19世紀半ば、ウィーンを取り囲んでいた城壁を皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の命により取り壊し、環状道路が造られました。この通りに沿って公園、国会議事堂、市庁舎、大学、ブルク劇場、国立歌劇場、美術史/自然史博物館、王宮といった主要施設が並んでいます。

[MAP] P.32,33 A,B,C-2,3,4

公園と庭園

市立公園(シュタットパーク)は、1862年に開園したウィーン初の市立公園です。園内にはヨハン・シュトラウスやシューベルト、ブルクナーの像があり、クアサロンではコンサート&ディナーが楽しめます。

[MAP] P.33 C-3,4

市民庭園(フォルクスガルテン)は、美しいバラ園が見どころ。皇妃エリザベータ像もあります。

[MAP] P.32 B-2

王宮庭園(ブルクガルテン)は、モーツァルト像が有名な英国式庭園。皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の個人所有でしたが、死後3年後の1919年に一般開放されました。フリードリッヒ・オーマン設計による世紀末様式の温室(パルメンハウス)には、南国の蝶が飛び交う蝶の家と、植栽が施され緑あふれるカフェ・レストランがあります。

[MAP] P.32 C-2



ホーフブルク王宮、ミヒャエラーブラッツ広場



ウィーン市庁舎前広場の「音楽フィルムフェスティバル」



ウィーン国立歌劇場「オペラ座舞踏会」

ホーフブルク王宮

ハプスブルク家の居城。増改築を繰り返したため、さまざまな時代の建築様式が共存しています。旧王宮では皇帝の住居を公開し、一部は皇妃エリザベート（シンイ）の博物館となっているほか、銀器コレクションも見事です。新王宮のウィーン世界博物館と、国立図書館プルンクザールも見応えたっぷり。

王宮宝物館には、聖遺物、ミサ用の祭服や祭具、10世紀に制作された神聖ローマ帝国の帝冠と権標、オーストリア皇帝の冠、ブルグント公国の財宝、金羊毛皮騎士団の財宝といった、ハプスブルク帝国の栄華を象徴する品々が展示されています。

[MAP] P.32 C-2

www.hofburg-wien.at

スペイン式宮廷馬術学校

リピッツァー種という白馬が披露する、古典馬術の殿堂。美しいバロック様式のホールは、巨匠フィッシャー・フォン・エルラッハの設計により、皇帝カール6世時代の1729～35年に建てられました。16～17世紀にかけて世界帝国を築いたハプスブルク家は、オーストリア・ハプスブルク家とスペイン・ハプスブルク家に分かれました。イベリア半島から多くのアンダルシア馬が導入され、これをもと

に生まれたのがリピッツァー種です。「スペイン」の名はこの史実に由来します。厩宮（シュタールブルク）にはリピッツァー博物館があります。ユネスコ無形文化遺産。

[MAP] P.32 C-2 www.srs.at

市庁舎（ラートハウス）

1872年～1883年に造られたネオゴシック建築。前の広場では、夏には音楽フィルムフェスティバル、11月中旬～12月26日はクリスマスマーケットが開催され、11～3月はスケートリンクが設置されます。

[MAP] P.32 B-2

国会議事堂（パラメント）

民主主義を象徴する古代ギリシャ風の建物で、正面には知恵の女神アテネが。1873年～1883年にウィーン楽友協会の建物も手掛けたハンセンの設計で建造。5年かけて大改修され2023年に再オープン。無料のガイドツアーあり。

[MAP] P.32 B-2

ケルトナー通り

シュテファン大聖堂から国立歌劇場に延びる歩行者天国。高級ブランドやアパレルショップ、カフェが並び、ウィーン随一の繁華街です。

[MAP] P.33 C-3

ウィーン国立歌劇場

1861年～1869年に宮廷オペラ劇場として建てられ、モーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』でこけら落とし。1945年に戦災を被りましたが修復され、1955年カール・ベームが指揮するベートーヴェンの『フィデリオ』で再開館しました。日本語バックステージツアーあり。

[MAP] P.33 C-3

www.wiener-staatsoper.at

カール教会

マリア・テレジアの父カール6世が、パストの終息を祈願して1716年～1739年に建立した教会。バロック建築の巨匠エルラッハ父子の設計。ウィーン市史を網羅するウィーン・ミュージアム・カールスプラッツが隣接しています。

[MAP] P.33 D-3

美術史博物館と自然史博物館

美術史博物館は、ハプスブルク家が収集した約40万点の芸術品を所蔵。コレクションはルーベンス、レンブラント、デューラー、ティツィアーノ、ベラスケスと広範で、中でも『農民の婚礼』をはじめとするブルジョア的コレクションは世界一です。クストカンマー（美術工芸館）には2,200点もの名品珍品

が。歩き疲れたら、美しい館内カフェで休憩を。

自然史博物館には先史時代からの動物、植物、鉱物やハルシュタット文化時代の出土品があり、特に約2万5千年前の『ヴィンドルフのヴィーナス』、マリア・テレジアの『宝石の花束』が有名です。

[MAP] P.32 C-2

www.khm.at, www.nhm.at

プラーター

ドナウ運河とドナウ本流の間に広がるプラーターは、遊園地とスポーツ施設がある広大な緑地。ウィーンのシンボルである大観覧車もあります。

[MAP] P.33 A-4

ドナウ運河

シュヴェーデンブラッツのドナウ運河には定期観光船発着場やカフェ、レストランがあり、常に賑わっています。

[MAP] P.33 A-3, B-3, B-4

マリアヒルファー通り

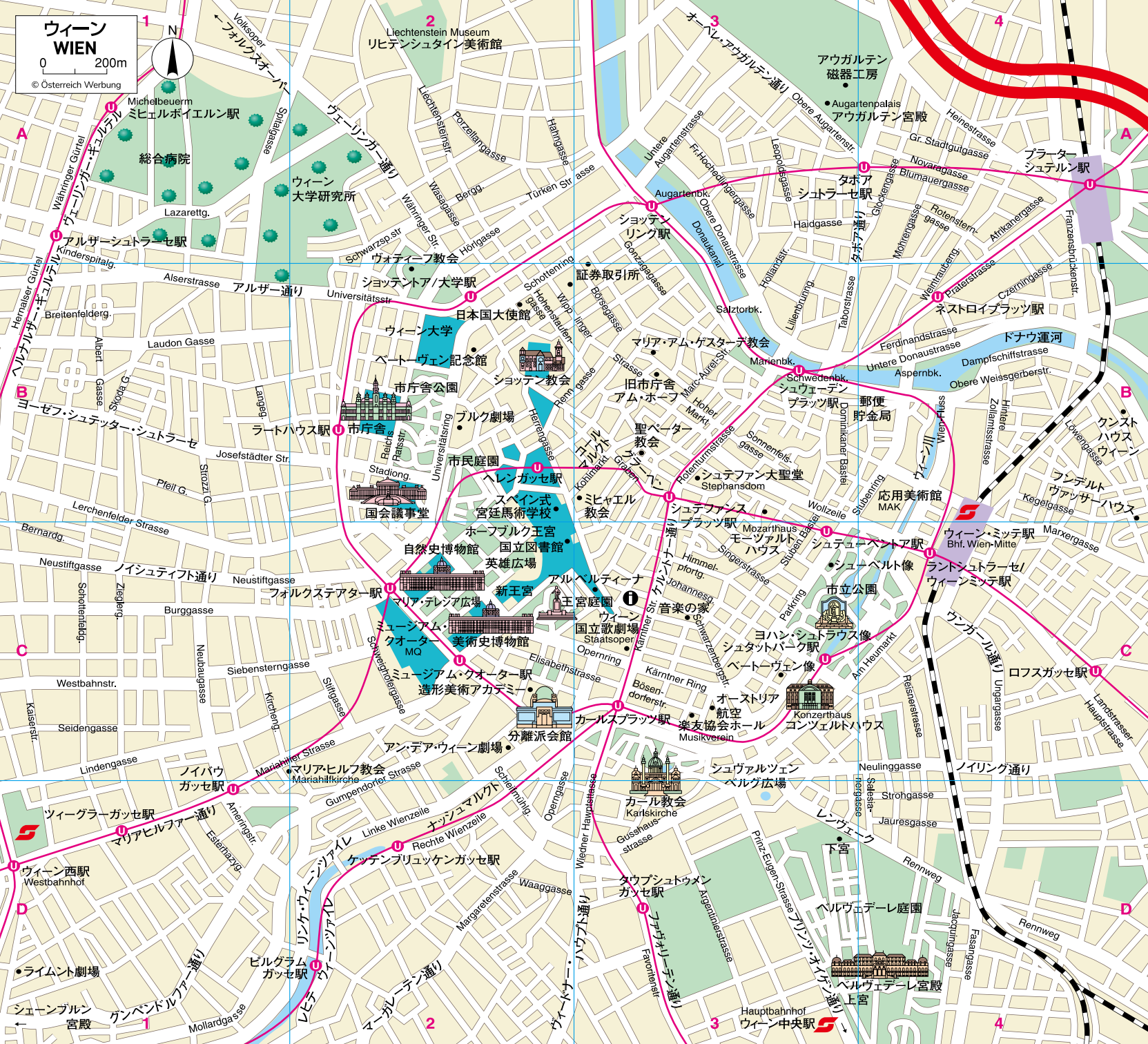
ウィーンっ子に人気の約2km（ミュージアム通り／ゲトライデマルクト～西駅間）のショッピング街。デパートもあります。地下鉄U3で

[MAP] P.32 D-1, C-2

ウィーン
WIEN

0 200m

© Österreich Werbung



2
Lichtenstein Museum
リヒテンシュタイン美術館

アウガルテン
磁器工房
●アウガルテン宮殿

プラーター
シュテルン駅

●タボア
シュトラッセ駅

●ヴォーティフ教会
●シツェントア/大学駅

●証券取引所

●ネストロイプラッツ駅

●ウィーン大学
●ベート・ヴェン記念館

●マリア・アム・ゲスターネ教会

●ドナウ運河

●市庁舎公園
●市庁舎

●旧市庁舎
●アム・ホーフ

●郵便貯金局

●ラートハウス駅

●聖ペーター教会

●シュエデンプラッツ駅

●ブルク劇場
●市民庭園

●ミヒャエル教会

●ウイーン・ミッテ駅
●Bhf. Wien-Mitte

●スペイン式宮廷馬術学校
●ホーフブルク王宮

●ベルティナー宮庭園

●ランドシュトラッセ/ウイーン・ミッテ駅

●自然史博物館
●国立図書館
●英雄広場

●ウィーン国立歌劇院

●市立公園

●新王宮
●マリヤ・テレジア広場

●オペルン

●ロフスガッセ駅

●ミュージアム・クォーター MO
●ミュージアム・クォーター駅

●カールスプラッツ駅

●ノイリング通り

●造形美術アカデミー
●分館派会館

●シュヴァルツェンベルグ広場

●ノイリング通り

●アン・デア・ウィーン劇場

●カール教会
●Karlskirche

●ヘルヴェデーレ宮殿
●上宮

●マリヤ・ヒルプ教会
●Mariahilf Kirche

●シュヴァルツェンベルグ広場

●ヘルヴェデーレ庭園

●ケッテンブリュッケンガッセ駅

●タウプシュトヴェンガッセ駅

●ヘルヴェデーレ宮殿

●ツィーグラウガッセ駅

●フアンクホーフェンガッセ駅

●ヘルヴェデーレ宮殿

●マリヤ・ヒルプ教会

●フアンクホーフェンガッセ駅

●ヘルヴェデーレ宮殿

●ツィーグラウガッセ駅

●フアンクホーフェンガッセ駅

●ヘルヴェデーレ宮殿

●ツィーグラウガッセ駅

●フアンクホーフェンガッセ駅

●ヘルヴェデーレ宮殿

●ツィーグラウガッセ駅

●フアンクホーフェンガッセ駅

●ヘルヴェデーレ宮殿



ドナウ川に臨むヴァイセンキルヒェン

ウィーンの郊外へ

丘陵にブドウ畑が広がるウィーンの森、ドナウ川クルーズのハイライト、ヴァッハウ渓谷へ。



デュルンシュタイン

ウィーンの森

ウィーンの北・西・南を取り巻くウィーンの森は、アルプス山脈の最東端であり、市街地の3倍ほどの面積(約1,350km²)があります。丘陵では日当たりを生かして良質なワインが生産されており、ベートーヴェンやシューベルトも自然の中で一杯の楽しみに足を運びました。グリンツィングはホイリゲ(ワイン居酒屋)が並ぶワイン産地の町。シュランメル音楽を聴きながら新酒を味わうのは格別の楽しみです。ハイリゲンシュタットはベートーヴェンゆかりの地。『田園』の着想を得た散歩道や、現在は博物館やホイリゲになっている住居などが点在します。

アクセス：グリンツィングへはショッテントアから市電38で終点まで約30分。ハイリゲンシュタットのベートーヴェン博物館へは、ショッテントアから市電37で終点で降り、徒歩5分。

ヴァッハウ渓谷

ドイツの黒い森を起点に、オーストリアや東欧を抜け黒海に注ぐドナウ川。全長約2,800kmで最も風光明媚といわれる世界遺産のヴァッハウ渓谷を存分に楽しむなら、ドナウ川クルーズがオススメです。まずはウィーン中央駅からメルク駅まで準急列車で約1時間。壮大なメルク修道院を見学してから船へ。

丘陵のブドウ畑や壮麗な古城などが目の前に迫り、川沿いにはリースリングという白ワインの産地ヴァイセンキルヒェンやシュピッツ、中世都市デュルンシュタインなど見どころがたくさん。終点のクレムスの対岸にはゲットヴァイク修道院がそびえています。

クルーズ船の運航期間：4月上旬～10月末。それ以外の期間は、メルクやデュルンシュタイン、クレムスの町々を列車で訪ねます。ウィーンからは便利な観光バスも出ています。

© Left (from top to bottom): Österreich Werbung/ Martin Stenhaler/ timefoto.com, DDSG Blue Danube/ Markus Haslinger, Right (from top to bottom): Tourismus Salzburg GmbH, Tourismus Salzburg/ Markus Kohlmayr



ザルツァッハ川とザルツブルクの街並み



ミラベル庭園

ザルツブルクの見どころ

モーツァルトの生誕地、『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台。ユネスコ世界文化遺産のバロック都市。

ホーエンザルツブルク城

メンヒスベルク山の上にそびえる町のシンボル。中欧で最も保存状態のよい中世城塞建築の一つです。豪華な大司教の居間や黄金の間は圧巻。「ザルツブルクの雄牛」と呼ばれる大オルガンがあり、モーツァルトの城塞コンサートも開催されています。博物館には昔の武器や工芸品などを展示(日本語音声ガイドあり)。テラスからはアルプスの山並みと市街のパノラマが楽しめます。

[MAP] P.36 B-2

www.festung-salzburg.at

メンヒスベルク

ザルツァッハ川沿いに南西に伸びる山。春にはブナやカエデ、菩提樹、桜が新緑の輝きを放ち、秋は燃えるような紅葉が見事です。登頂ルートはいくつかありますが、最も快適な方法は山の中を通るメン

ヒスベルク・エレベーター。山頂にはザルツブルク現代美術館があります。素晴らしい眺めの高級レストラン「M32」や「ホテル・シュロス・メンヒシュタイン」、ソーセージ屋台「ビュッフェ・ツァー・リヒターヘーエ」、伝統オーストリア料理店「シュタットアルム」など、食事処も充実しています。

[MAP] P.36 A-1, B-1,2

ミラベル庭園／宮殿

『ドレミの歌』のロケ地で有名な庭園からは、ホーエンザルツブルク城と大聖堂が一望に。ギリシャ神話を題材にした石像、噴水、四季の花々が人々を魅了します。園内のほぼ中央に位置するミラベル宮殿は、大司教ヴォルフ・ディートリッヒが愛人サロメ・アルトのために建てた別荘。内部の大理石の間は、室内楽コンサートや結婚式などの会場として使用されています。

[MAP] P.36 A-1



モーツァルトの生家

モーツァルトの生家

1756年、旧市街一番の目抜き通りであるゲトライデガッセ通り9番地で、モーツァルトは誕生しました。建物は現在記念館になっており、神童が使用していた子ども用バイオリン、コンサート用ヴァイオリン、ピアノ、一家の肖像画と書簡などが展示されています。

[MAP] P.36 B-2

www.mozarteum.at



ドーム(大聖堂)と旧市街

ゲトライデガッセ通り

15世紀建築の市庁舎に続く通りで、ザルツブルク随一の観光スポット。頭上には扱っている商品を模した鉄細工の看板がズラリ。ショップやレストランがひしめき、常に賑わっています。

[MAP] P.36 B-1,2

サント・ペーター修道院

国内最古のベネディクト派修道院。映画『サウンド・オブ・ミュージック』にも登場しました。修道院の装飾品は、宗教芸術として価値の高いものばかり。裏手の墓地には、モーツァルトの姉のナンネルや旧友ミヒャエル・ハイドンが眠っています。初期キリスト教徒の祈禱のための洞窟「カタコンベ」は必見です。

[MAP] P.36 B-2

ドーム(大聖堂)

バロック様式とローマ風の建築様式が調和した大聖堂。大司教マルクス・シティクスのもとで建築家ソラーリによって1614年に着工、1628年に完成しました。モーツァルトの洗礼とカラヤンの告別式が行われたことでも知られます。約6千本のパイプを持つパイプオルガンとドーム博物館が見どころ。正面の広場では毎夏、ザルツブルク音楽祭の恒例演目『イエーダーマン』が上演されます。

[MAP] P.36 B-2

レジデンツ

歴代大司教の宮殿で、豪華な内部はガイドツアーで見学できます。レジデンツ広場のシンボルは美しいバロック様式の大噴水。広場では9月のルーペルト祭やクリスマス市などの催し物が行われます。

[MAP] P.36 B-2

www.residenz-salzburg.at

グロックンシュピール

1702年に造られた、レジデンツの反対側にある新レジデンツの鐘楼。音程の異なる35個の鐘が毎日7時、11時、18時に鳴り響きます。

[MAP] P.36 B-2

ザルツブルクのドームクォーター

ドーム(大聖堂)、サント・ペーター修道院、レジデンツなどを含む旧市街の主要建築物は、17世紀に造られた回廊で結ばれ、ドームクォーターと呼ばれる巡回コースとなっています。

このコースを一巡りすれば、バロック様式の豪華な部屋と2千点もの美術品を堪能できます。

通行時間：火曜日を除き、毎日午前10時～午後5時、7月～8月は毎日午前10時～午後6時

[MAP] P.36 B-2

www.domquartier.at



ザルツブルク名物のビールを飲む!

ザルツブルクに最初の商業的なビール醸造所が生まれたのは今から600年前の14世紀末。1492年創業のシュティエーグルブロイと1621年創業のアウグスティナー・ブロイが現在も営業を続けています。伝承された知識と技術が生むザルツブルクのビールをご堪能ください。



祝祭劇場

祝祭劇場

大司教の廬舎を1926～28年に建築家クレメンス・ホルツマイスターが祝祭小劇場に改築、その後1956～60年にかけて大劇場が増築されました。モーツァルト生誕250周年の2006年に小劇場が改築され、「ハウス・フュア・モーツァルト（モーツァルト劇場）」へと生まれ変わりました。夏のザルツブルク音楽祭のメイン会場であり、映画『サウンド・オブ・ミュージック』のロケ地としても有名。内部のガイドツアー（約1時間）あり。

[MAP] P.36 B-1

www.salzburgfestival.at

マリオンネット劇場

モーツァルトやシュトラウス等のオペラや『くるみ割り人形』『サウンド・オブ・ミュージック』などが演じられる、人形劇専門の劇場。

[MAP] P.36 A-1

www.marionetten.at

ヘルブルン宮殿



モーツァルテウム

1914年設立の国際財団法人で、音楽院とコンサートホールがあり、サマアカデミーが開催されています。庭園にある「魔笛の家」は1791年にモーツァルトが『魔笛』を完成させた家で、ウィーンから移築されました。内部見学は不可。

[MAP] P.36 A-1

www.mozarteum.at

マカルト広場の モーツァルト住居

モーツァルトが故郷ザルツブルクを捨てウィーンに向かうまでの7年間（1773年～1780年）を過ごした家で、現在は博物館。日本語解説あり。

[MAP] P.36 A-2

ヘルブルン宮殿

旧市街から南へ7km、いたずら好きの大司教マルクス・シティクスが造らせた宮殿。バロック庭園には仕掛け噴水があちこちに隠してあり、人々を驚かせます。水力で動くミニ人形劇場も見どころ。4～11月オープン。冬期休業中に開催されるクリスマス市がオススメ。アクセス：市内からバス25番で20分 www.hellbrunn.at

レッドブル・ハンガー 7

ザルツブルクに本社を置くレッドブルのミュージアムで、ザルツブルク空港内に位置。建物内部には、レッドブル主催のエクストリームスポーツで活躍するF-1マシンや航空機などが展示されています。入場無料。併設のレストラン「イカルス」はミシュラン2つ星を獲得。www.hangar-7.com

グロースグロックナー・ アルプス山岳道路

皇帝も愛した息を呑むような景色。
オーストリア最高峰を望む天空の道！

標高3,798mのグロースグロックナー山は、オーストリアの最高峰です。一帯はホーエ・タウエルン国立公園に指定され、峰々と氷河、滝、森林が雄大な景観を造っています。1856年、皇帝フランツ・ヨーゼフ1世と皇妃エリザベートもここを訪れ、2時間以上も留まってパステルツェ氷河とグロースグロックナーの偉容を楽しみました。運が良ければ、アイベックスやカモンカ、マーモットといった高山動物にも出会えます。

全長48kmでザルツブルク州のブルックとケルンテン州のハイリゲンブルートを結ぶ「グロースグロックナー・アルプス山岳道路」は、雄大な自然を車窓から楽しむための観光専用道路です。国立公園の中心を通過して海拔2,571mに達し、オーストリア最高峰の麓を辿ってパステルツェ氷河に至ります。標高2,369mの展望台「フランツ・ヨーゼフス・ヘーエ」からは、グロ



フランツ・ヨーゼフス・ヘーエ展望台から望む
グロースグロックナーとパステルツェ氷河

ースグロックナー山の斜面と氷河、それらを取り囲む3,000m級の峰々が一望できます。展望台センターにはレストランや展示室もあります。

グロースグロックナー山岳道路の走行にはレンタカー、またはツェル・アム・ゼーなどから出ている観光バス「グロックナーバス」が便利です（2026年は5/26～9/29の火曜、7・8月は火曜・木曜運行）。

グロースグロックナー・
アルプス山岳道路





グラーツの街を見下ろす
シュロスベルクのレストラン

シュロスベルクの時計塔



美食の街 グラーツ

人にも環境にもやさしいグルメタウン！

緑のシュタイヤマルクの州都、グラーツは活動的なライフスタイル、魅力的な見どころ、印象的な建築物、アートスペース、トレンドなフェスティバル、流行のデザインショップ、食通の好みに応える多数のバーやレストランなど、訪れるすべての人々の心を掴んで放しません。

文化都市グラーツは美食で有名。その理由は、シュタイヤマルク州の肥沃な土壌で育つ農産物が集まってくるからです。レストランでは郷土の食材を使った美味しいメニューが用意され、毎朝市内各所

で開かれるファーマーズ・マーケットでは地元の食に親しめます。そして毎年8月恒例の一大グルメイベント「ロング・テーブル・オブ・グラーツ」や各種グルメツアーでは食の喜びを満喫できます。

サステナブルなライフスタイルが大切にされる今日、グラーツは長年にわたって持続可能性に取り組んできました。クールで公正に生産されたファッション、中古品やヴィンテージの服や雑貨を扱うショップ、持参した買い物かごでショッピングするファーマーズ・マーケット、パッケージフリーの商品、再利用可能なデポジットカップ、市内中心部を走るトラムは無料…持続可能性は街中で実現されています。天気の良い日は、シュロスベルクやエッゲンベルク宮殿公園でピクニックをし、都市の自然に親しんでください。



レント広場の
マーケット



グラーツについて

市庁舎前広場の「ロングテーブル・オブ・グラーツ」



王宮の二重らせん階段

グラーツの見どころ

オーストリア第2の都市で、美食の街。
旧市街とエッゲンベルク宮殿は世界遺産。

ウィーンから南へ列車で約2時間半。赤い瓦屋根の連なる旧市街は、中世のたたずまいを色濃く残す一方、ハッとするようなモダンな建物も多くあります。

シュロスベルク

13世紀の時計塔が立つ小高い山で、かつて外敵を防ぐ城塞がありました。ナポレオンさえ攻略を諦めた、史上最も堅固な城塞としてギネスブックに載っています。一見普通に見える時計塔は、長針と短針の位置に注目を。頂上からは旧市街が見渡せ、カフェ・レストランもあります。

[MAP] P.42 A-1

州立武器庫（武器博物館）

オスマン軍の襲撃に対抗するための武器の常備庫。1551年以降の鎧や鉄砲など3万点以上が保管され、今でもすぐに使えるほど整備されています。冬期休館。

[MAP] P.42 B-1,2

大聖堂（ドーム）

ハプスブルク家の皇帝フリードリッヒ3世が1438年～1464年に造らせた王宮用教会。南壁には小さな張り出し屋根で保護された『苦難の絵』があり、1480年にシュタイヤマルクを襲ったペスト、オスマン軍、イナゴの大群という三つの苦難を表現しています。

[MAP] P.42 B-2

王宮

15世紀に皇帝フリードリッヒ3世が建て、後に息子のマキシミリアン1世が後期ゴシック様式に改修しました。主要部分は19世紀に撤去され、現在は州知事官邸です。最初の中庭を抜けた第3棟の脇には、1499年に造られたゴシック末期の石工芸術の傑作「二重らせん階段」があり、分かれては合流することから「和解の階段」と呼ばれています。

[MAP] P.42 A-2, B-2

霊廟(マウソレウム)

オーストリアの覇者としてグラーツに滞在した皇帝フェルディナント2世の霊廟。イタリアの宮廷御用達画家であったジョヴァンニ・ピエトロ・デ・ボミスの設計。

MAP P.42 B-2

中央広場と市庁舎

中央広場にある噴水は「シュタイヤマルクの王子」と慕われたヨハン大公を追悼するために1878年に造られました。丸屋根、時計、角型の塔が特徴的な市庁舎は19世紀末の建築。クリスマス時期はプロジェクションマッピングが投影されます。

MAP P.42 B-1

歴史的広場と ロマンティックな小路

市庁舎が建つ中央広場、肉屋が多いフランツィスカーナー広場、カフェが並ぶメル広場、伝統と現代文化が融合したフェルバー広場、イベントで賑わうシュロスベルク広場。ヘレンガッセやシュポールガッセにはブティックが、ザックガッセには美術工芸専門店が並びます。

MAP P.42 B-1,2

州庁舎

北イタリアの宮殿様式の州庁舎は、支柱の下に見られる彫刻と、豪華な回廊をもつルネッサンス様式の中庭が特徴。

MAP P.42 B-1,2



クンストハウス グラーツ

エッゲンベルク宮殿

クンストハウス グラーツ

宇宙船のような姿の現代博物館で、2003年に完成。触手のような部分と、シュロスベルクの古い時計台が呼応している、という人も。「フレンドリーなエイリアン」の愛称で親しまれています。夜のライトアップも一見の価値あり。

MAP P.42 B-1

ヤの種から抽出した香ばしいオイルで、サラダやスープ、バナニアイスにかけて食べると非常に美味しく。健康食品としても注目を浴びています。

エッゲンベルク宮殿

ハンス・ウルリッヒ・フォン・エッゲンベルク公が1625年~1635年にかけて建てた宮殿。当時最新の宇宙観を導入し、例えば外窓は365(1年365日)、門は12(1年12ヶ月)、各階の部屋は31(1ヶ月31日)あります。豊臣期の大坂城研究に多大な役割を果たした日本の屏風絵も必見です。市内から市電1番で約15分。一部冬期休館。

ムーアインゼル

グラーツ市内を流れるムーア川に、「川辺に浮かぶ貝」をモチーフに造られた文化施設。内部にはカフェと半円形劇場があります。ムーア川の沿岸は遊歩道に整備されており、散歩にぴったり。

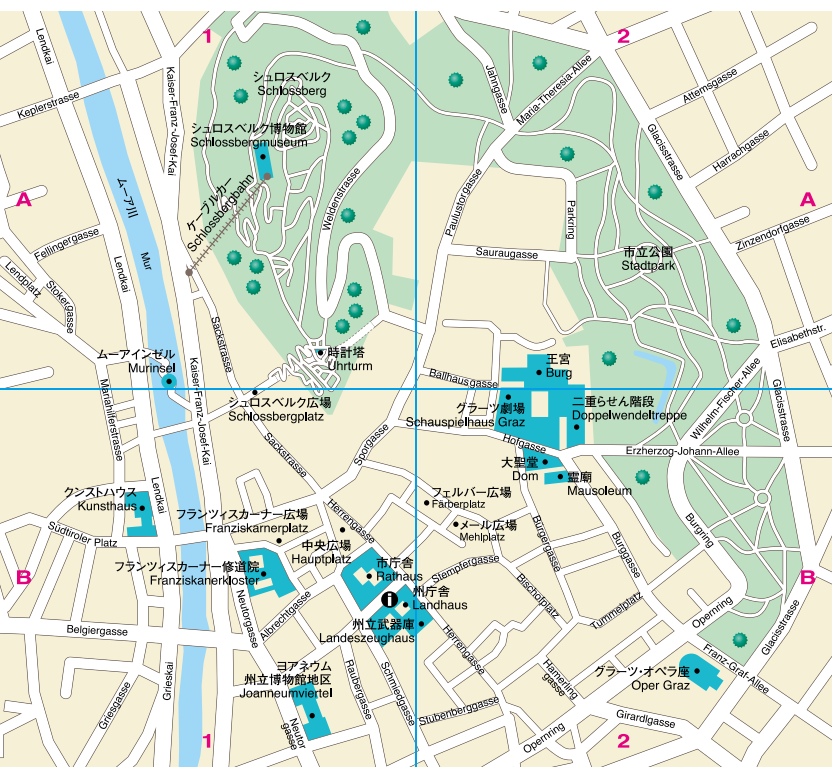
MAP P.42 A-1

ファーマーズ・マーケット

グラーツがあるシュタイヤマルク州は、国内有数の農作地。毎朝どこかでファーマーズ・マーケットが開かれ、生産者が採りたての作物を並べます。グラーツ・オペラ座の裏手にあるカイザー・ヨーゼフ広場やレント広場のマーケットがオススメ(月~土6:00~13:00)。特にオススメのお土産は、シュタイヤマルク州のブランド生産物であり「黒い黄金」とも呼ばれるパンピンシードオイル。炒ったカボチ

グラーツの美食イベント

シュタイヤマルク州の肥沃な土壌で育つ農作物が集まる州都グラーツは、グルメの街として有名です。市庁舎前広場に巨大なダイニングテーブルが並ぶ「ロング・テーブル・オブ・グラーツ(8月)」をはじめ、ロゼワイン祭り(6月)、フードフェスティバル(6~7月)、トリュフ祭り(10月)などの美食イベントが通年開催されています。詳しくはグラーツ市観光局(Graz Tourismus)の公式サイトをご覧ください。





旧市街と黄金の小屋根

インスブルックの見どころ

中世の面影をたたえる、ハプスブルクの古都。隣接する山々は、夏はハイキング、冬はウィンタースポーツの聖地。

アンブラス城



© Left (from top to bottom): Österreich Werbung/Julius Silver, Innsbruck Tourismus/Kathrin Baumann

宮廷教会

マキシミアン1世の像が置かれた棺と28体のブロンズ像が圧巻。デューラーのデザインしたアーサー王の像や、チロルの英雄アンドレアス・ホーファーの墓も。チロル民族博物館に隣接。

[MAP] P.45 A-2

アンブラス城

市の南東にあり、16世紀にチロルの大公フェルディナント2世が平民出身の愛妻フィリピーネ・ウェルザーのために建てた白亜の城。併設の博物館ではフェルディナント2世の代から伝わるハプスブルク家の美術品を展示しています。アクセス：サイトシーアバス利用が便利。

ノルトケッテンバーン

市の北側に聳えるノルトケッテン(2,300m)に登るケーブルカー。所要時間は約30分(フンガールク駅でロープウェイに乗り換え)。頂上からはチロルの400以上の峰と、天気が良ければグロースグロックナーまで眺望できます。モダンな駅舎はザハ・ハテイドのデザインです。

チロルの村々

絵本の世界のような風景がどこまでも広がるチロル州。インスブルックを拠点に、ローカル列車やポストバスを使って、美しい渓谷や美しい村を日帰りで訪れてみましょう。夏のハイキング、冬のスキーもオススメです。

美しいアルプスの山々に囲まれた、チロル州の州都。ハプスブルク帝国時代には「陰の首都」と呼ばれ、ウィーンに次ぐ中心地として栄えました。

黄金の小屋根

ハプスブルク家の黄金時代を築いた皇帝マキシミアン1世が広場で行われる祭事を見物するために建てた後期ゴシック様式の張り出しテラス。名称は金箔を貼った2,657枚の瓦に由来します。欄干は砂岩のレリーフ、壁はフレスコ画が彩り、内部にはマキシミアン1世の博物館があります。

[MAP] P.45 A-1

ホーフブルク王宮

ハプスブルク家の2つ目の王宮。ウィーン以外に「ホーフブルク」と称される唯一の王宮です。ジークムント大公が1460年に創建し、その後マリア・テレジアが改築しました。華麗なシャンデリアや天井画で飾られた大広間が見どころ。

[MAP] P.45 A-1

凱旋門

1765年、後の皇帝レオポルド2世とマリア・ルドヴィカの婚礼を記念して建てられた凱旋門。しかし喜ばしい祝典の最中、父でありマリア・テレジアの夫である皇帝フランツ・シュテファン・フォン・ロートリングゲンが急逝。このため凱旋門の片側には婚礼の場面、もう片側には皇帝の死を悼む場面が描かれています。

[MAP] P.45 B-1



オーストリアのクリスマス

アドヴェント（待降節）はクリスマス前の4週間の期間のことで、オーストリアでは1年で最も平和な時期としても知られています。クッキーを焼いたり、クリスマスへのデコレーションを楽しんだり、アドヴェントの歌を合唱したりと、クリスマスまでの数週間、家族で愛すべき伝統を共有し、昔ながらの風習が守られている時期です。



グラーツのクリスマスマーケット

ウィーンの冬の日を楽しむ

ウィーンでは多くの広場でクリスマス市が開かれる中、市庁舎前広場で一番賑やかなマーケットとイベントが繰り広げられます。

また、シェーンブルン宮殿やウィーンの郊外で開催されるクリスマスマーケットも趣があります。公園や庭園、別荘の前などの牧歌的な場所は、街の中心部から離れていても、冬にはクリスマスらしい雰囲気を楽しめます。

雪に輝くモーツァルトの街、ザルツブルク

静かな路地には平和が訪れ、妖精の光が旧市街を華やかに彩り、レストランやカフェのライトアップされた窓が訪れる人を温かく迎えてくれます。

ザルツブルクではレジデント広場、ミラベル広場などのクリスマス市、ヘルブルン宮殿のマーケットがロマンチックでおすすめです。ザルツブルク近郊のオーベルンド

ルフはクリスマスキャロル『きよしこの夜』が生まれた村です。聖歌の誕生した起源がここにあります。そして平和の歌は世界に広がっていききました。

アドヴェントの魔法に包まれたグラーツ

クリスマス時期のグラーツの雰囲気は、旧市街の豪華な装飾を施した様々な通りによく表れています。最も有名なヘレンガッセ通りでは、イルミネーションで飾られたクリスマスツリーが逆さに吊るされていて、人目を引くクリスマスの風物詩となっています。お店からはシナモンやバニラ、ローストアーモンドなどのクリスマスの香りが漂い、周囲の屋根には雪がそっと降り積もっています。一年で最も静かな時期にしか存在しない魔法がこの街を包み込んでいるのです。また、市庁舎に映し出されるアドヴェントカレンダーと広場のクリスマスツリーもステキです。

旅に役立つ基本情報

商店の営業時間

商店は一般的に、月曜日から金曜日は9時～18時（店により8時から）、土曜日は17時まで営業しています。ウィーンのショッピングセンター等は、平日20時まで開いています。業種や季節により営業時間は変更され、特にリゾート地のハイシーズンは時間が延長されることもあります。日曜日や祝祭日は基本的に休業しますが、ミュージアムショップ、駅や空港のスーパー、土産店はオープンしています。

ウィーン及びオーストリア各地を快適なレイルジェットが結んでいます。近年、夜行列車「ナイトジェット」も増えています。

自動車：オーストリアのアウトバーン及びその他の高速道路網は極めて良く整備されており、気ままな個人旅行には最適な交通手段です。高速道路は有料のため、利用にはヴィニエツト（ステッカー）が必要です。キオスク、ガソリンスタンドでも購入できます。

オーストリア大使館観光部公式チャネル

 **ウェブサイト**
austria.info


各地の情報ははじめ、全国の案内、イベントの紹介や有益なアドバイス、楽しい話題も豊富です。

 **Facebook**
@feelaustriaJP

 **X**
@ANTO_Tokyo

オーストリア関係の楽しい情報や、オーストリアの美しい写真を発信しています。

 **YouTube**
www.youtube.com/austria
躍動するオーストリアのハイライトをビデオでご覧ください。

 **メールニュース**
オーストリアニュースレター

オーストリア大使館観光部では毎月一回、無料のニュースレターにて最新の観光トピックや日本におけるイベント等の情報を発信しています。不定期でプレゼントが当たる抽選もあります。ご登録は右QRコードか、以下のウェブサイトです。



https://austria.info/jp/Newsletter

オーストリアの免税システム

オーストリアでの買物には付加価値税（MwSt.）が含まれていますが、条件を満たした外国の旅行者には、税金を免除する特典があります。通常、商品価格の約13%が払い戻されます。

オーストリアへのアクセス

飛行機：日本からの直行便は、オーストリア航空とANAが就航しています。詳しいスケジュールは各社のウェブサイトをご覧ください。また、従来の国内線に代わり、オーストリア航空とオーストリア連邦鉄道ÖBBが協力して運行する、環境にやさしい「エアレイルAlRail」は、インスブルック/ザルツブルク/リンツ/グラーツ～ウィーン空港間を結んでいます。ウィーン国際空港シュヴェツヒャート

の他、グラーツ、ザルツブルク、インスブルック、リンツ、クラゲンフルトの6都市に空港があります。**鉄道**：鉄道網は充実しています。隣接するオーストリア周辺諸国と、

オーストリアの 持続可能な休暇のスタイル

サステナブル・ツーリズム（持続可能な観光）が提唱される現在、観光の大衆化による環境や文化への負荷、過度な商業化を避けて観光地本来の姿を求めているこうとする考え方が進んでいます。

オーストリアは世界で最も成功している観光地の一つです。このオーストリアで過ごす「持続可能な休暇」とは、一体どんな意味なのでしょう？ それは、貴重な資源を大切に利用し、オーストリアの

ずば抜けて質の高い生活を次世代も体験できるように配慮して自然を楽しむことといえます。

オーストリアの国立公園で生態学的な多様性を知ったり、エコホテルに宿泊したり、CO₂を排出しない交通手段で移動したり、ビオレストランでオーガニック料理を味わうなどして、オーストリア式のサステナブル・ツーリズムを体験してみたいかがでしょうか。



ヴァイセンゼー湖畔